

【c-japan | チェーン店舗や保有自動車の傾向も網羅した36の小分類】

A 都心	A1 都心のセレブ	都心の一等地に位置する屈指の繁華街・富裕層エリア。年収1000万円以上の世帯構成比が最も高く、高級車外国車の保有率も高い。マンション住まい、金融・不動産業の都市型ビジネスマンが多い。客単価の高い飲食店やアパレルなどの買回り品業種が多く、繁華街性の高いエリア。
	A2 都心のファミリー	20歳代後半から40歳代の人口構成比が高く、単身層とニューファミリー層が混在。マンション住まい、金融・不動産に従事する都市型ビジネスマンが多いエリア。居住者の新陳代謝が活発なエリア。
	A3 都心の単身層	20歳代から50歳代の人口構成比と年収400-500万円、1000万円以上の構成比が高く、単身層と富裕層が混在。飲食店や健康・美容関係の店舗が多い生活利便性の高く、人口密度が高い居住地。
B 都会	B1 マンション住まいのファミリー	マンション住まい、小中学生の子供を持つ40~50歳代の核家族世帯が多い。IT、金融、不動産系の都市型の仕事をしており、年収700万円以上の富裕層も多いエリア。家具屋や教育系などファミリー向けの店舗が多い。
	B2 住みやすい都会住宅街	50代までの人口構成比が平均以上で、家族世帯と単身世帯が混在。IT、金融、不動産系などの都市型就業者に加え、教育系の就業者も比較的多い。年収は700万円程度までの世帯が比較的多く出現。都心にも近く飲食店やカーシェアスポットが多いなど生活利便性も高い地域。
	B3 交通の便がいい住宅街	マンション世帯と戸建て世帯が拮抗。50代までの人口構成比が平均以上で、単身世帯と家族世帯も混在する。不動産、ITをはじめ多様なサービス業従業者が居住。鉄道沿線に面した交通の便の良いエリア。
C 都市	C1 独身貴族	未婚の単身世帯が多い。20代から50代までの生産年齢人口構成比、マンションなど賃貸住宅が多く、年収300~500万円、サービス業従事者が多い。
	C2 社宅住まい	社宅等に居住している世帯が多い。年収は平均的だが、住居費が抑えられ相対的に貯蓄額が高い。20代~30代の人口構成比が高く、単身世帯も多い。サービス業従事者、インフラ関係の就業者が多い。
	C3 学生街	20代前半の単身層が多いエリア。低年収層が多く、労働力人口が小さいなど学生街の特徴が色濃く出ている。学生街という土地柄もあり共同世帯が多く、飲食店系の就業者が多い。
D 都市近郊	D1 思春期世代のいるファミリー	10代の思春期世代と40代50代の両親世代の人口構成比が高い。戸建てよりも共同住宅に居住している世帯が多く、居住期間は10年前後の世帯が多い。年収500万円以上のサービス業、インフラ関連就業者が多く居住している。ミニバン保有率が高く、ファミリー層の多いエリア。
	D2 都市近郊のシニア層	65歳以上、一人二人世帯の構成比が高い地域。高齢人口が多く労働力人口も小さいためか、年収400万円以下の低年収層が多い。借家住まいが多い。
	D3 一戸建てファミリー	持ち家・戸建ての世帯数が多い。10代の子供世帯と40代50代の両親世代が多いエリア。居住期間は10年前後の世帯が多く、年収レンジは500~700万円ほどでインフラ、教育系の就業者が比較的多い。学習塾、幼児教室など教育関係の店舗が多い。
E 公営住宅	E1 都市の公営住宅住まい	公営住宅の居住者が多いことが特徴。居住者は60代以降と外国人の人口構成比が高い。年収300万円以下の低年収層が多く、失業率も非常に高く労働力人口が非常に小さい特徴。周辺の店舗にも100円ショップやディスカウントストアなどの店舗が多い。
	E2 地方の公営住宅住まい	60代以降の高齢が多く、失業率が高い。年収300万円未満の低年収層が非常に多く、保有されている自動車の種類は軽自動車が多い。
F 郊外型家族	F1 郊外型家族	40代後半以降の親世代と独立を控える10代後半の子供世代の人口構成比が高い。持ち家比率が高く、居住年数が20年前後の居住者が多い。教育、不動産系の就業者が多く、年収は500万円以上の比較的裕福な層が多く居住している地域。
	F2 旧市街	50代以降の人口構成比と小売・飲食店などのサービス業の就業者、自営業者が多い。居住期間が20年以上の居住者が多く、居酒屋やカラオケ店舗なども多い昔ながらの商店街。
	F3 成熟ファミリー	中学生以下の子供を持つ家族や高齢の夫婦世帯が混在。建設系や医療福祉系の就業者が多く、年収分布は300万円ほどの世帯が多い。一戸建ての比率が高く、長く同じ地域に住み続けている居住者が多いことが特徴。
	F4 年金暮らし夫婦	子供世代が独立し、セカンドライフを楽しむ60代以降の夫婦が多い。年収分布は500~1000万円が中心で、貯蓄も多い。持ち家、一戸建ての比率も非常に高く、居住期間も長い。

【c-japan | チェーン店舗や保有自動車の傾向も網羅した36の小分類】

G ニューファミリー	G1 やりくり上手なニューファミリー	15歳未満の食べ盛りの小中学生以下の世代と30代前後の親世代の人口構成比が高い。年収400万円未満の世帯と、持ち家・一戸建ての比率が高い。保有自動車は軽などの小型車が多く、うまく家計をやりくりしていることが垣間見える。就業構造としてはサービス業従事者が多く、居住期間は短い。
	G2 育ち盛りのニューファミリー	15歳未満の小中学生と30~40代の両親世代の人口構成比が高い。戸建て、共同住宅の比率は半々ほどで、世帯年収も700万円前後の世帯が多い。食べ放題やファミレスなど家族向けの店舗が多く利便性が比較的高い地域。保有自動車もミニバンなどファミリー向けの車種が多い。
	G3 工場勤めのニューファミリー	40代以下の人口構成比が高く、製造業の就業者が多いことが特徴。年収分布は500~700万円の間が中心となっている。自動車の保有数が多く、中古車店やカーメンテナンス店も多くある。
	G4 マイホーム予備軍	10代未満の子供と30代の親世代の構成比が高い地域。賃貸、社宅住まいが多く、居住期間も短いマイホーム予備軍。年収分布は300~700万円の世代が中心で、保有する自動車には軽自動車が多い。
	G5 子育て真っ盛り	乳幼児と30代の親世代の構成比が高く、子育てに奮闘する家族が多く居住している地域。戸建て、共同住宅住まいの比率は半々ほどで、居住期間が短いニュータウン。保険相談窓口や子供用品の店舗などが多くある。
H 工場勤め	H1 近郊の工場勤め	運輸業や製造業の就業者が非常に多く、賃貸世帯が多い。年代別の人口出現率は均等に出現し、年収分布も300~700万円ほどの平均よりの世帯が多い。カー用品店など自動車関連の店舗が多いことも地域柄をよく表している。
	H2 工場勤めのファミリー	製造業、建設業、運輸業などの就業者が多い。10代以下、40代、60代以降の人口構成比が高く、世代が混在している。持ち家・戸建ての比率も高く、居住期間も長い。工場勤めの就業者が多い地域柄が軽自動車の保有比率が高い地域。
	H3 地方の工業地域	製造業、建設業など第2次産業の就業者がとても多いことが特徴。年収400万円未満の世帯や失業者数が多いなど輝きが失われつつある地域の特徴が見受けられる。年齢分布では50代以降の出現率が高い。
	H4 歴史ある工業地域	居住者には、建設業や製造業など2次産業就業差者が多く、年収400~1000万円の構成比が高い。50歳代以上の人口出現率、平均年齢が非常に高く、居住期間も非常に長いことからその地域に長年住んでいる居住者が多いことが伺える。
	H5 工場勤めのシニア層	50代後半以降の人口構成比が非常に高いことがこのセグメントの特徴。3世代世帯、持ち家・戸建ての比率もかなり高く、出生時からの居住者も多い。
	H6 工場勤めの若者	20代・外国人の人口構成比が非常に高く、2次産業の就業者がほとんど。多くが未婚の単身世帯で、社宅住まいが非常に多いことが特徴となる。パチンコ店やアミューズメント施設など娯楽施設も多い。
I 大家族	I1 慎ましやかな大家族	5人以上の世帯が多く、年収400万円未満の層が多いことが特徴。産業的には1次、2次産業の就業者が多くなっており、軽自動車の保有率が高い。
	I2 田舎の大家族	5人以上の世帯が多く、出生時からの居住者が多いことが特徴。1次、2次産業の就業者と飲食・宿泊業が多い。年収500~600万円の世帯が多い。
J 社会インフラ就業者	J1 医療福祉就業者	医療福祉系、公務、教育系就業者が多く、小中学生の人口構成比が比較的高いことが特徴。持ち家・戸建ての居住率も高く、年収は400万円以下の層がメイン。ディスカウントストアや百円均一ショップなど低価格帯の店舗も多い。
	J2 エネルギーインフラ系就業者	公務、インフラ関連の就業者が多く居住している。20代が人口構成比が高く、社宅住まいの居住形態の割合が高い。年収400万円未満の世帯が非常に多いが、貯蓄は相対的に高い。
	J3 開発インフラ系就業者	人口構成比では50代後半以降が大半で、2人世帯が多い。産業的には鉱業や林業などの就業者が多い。年収は400万円以下の割合が高い。
K 農村	K1 大家族農村	農業を中心とした就業者が殆どの地域。人口構成比は50代後半以降が非常に多く、居住期間も非常に長い。軽自動車の保有率が高く、チェーン店が少なく郵便局が目立つ
	K2 農村高齢夫婦	60代以降の人口構成比、2人世帯が多いことが特徴。1次産業就業者が多く農業に加えて林業や漁業などの就業者も多い地域。人口密度も非常に低く過疎が進んでいる地域。